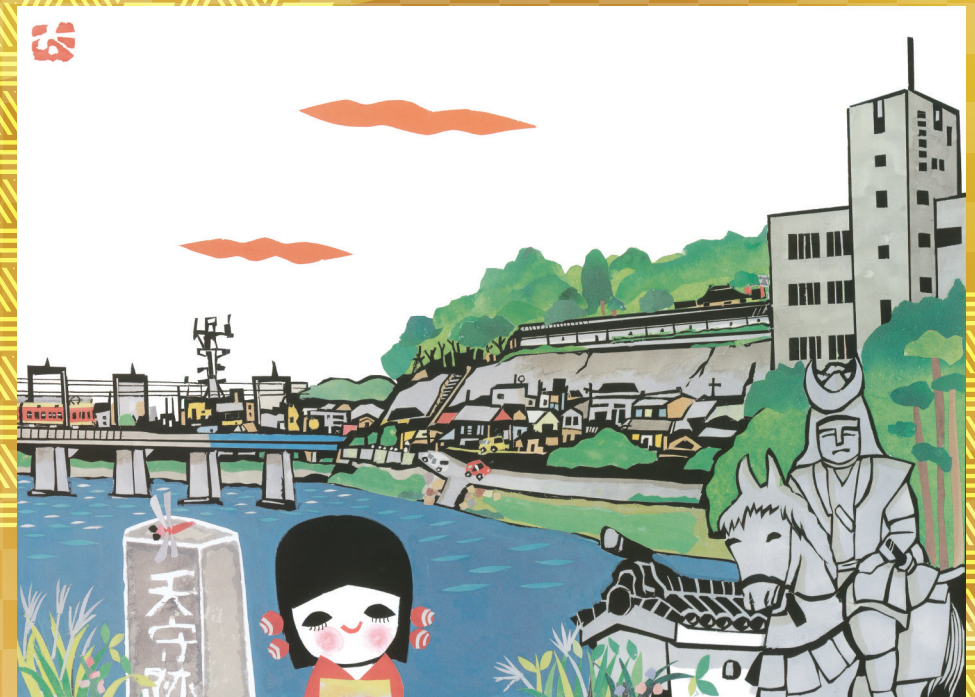


店舗一覧

明石市中央部	本店	明石市本町2-3-20	078(912)4567
	駅前支店	明石市桜町11-14	078(911)8181
	丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
	林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431
明石市西部	西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
	市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
	大久保支店	明石市大久保町駅前2-1-7	078(936)2165
	江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島835-1	078(946)0623
	魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
	二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221
加古川市・高砂市・播磨町	加宝本支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
	古殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
	莊支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270
三木市・小野市・加東市	三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
	緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
	小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
	小天滝支店	加東市天神492	0795(47)1011
		加東市上滝野2413	0795(48)2010
神戸市東部	本魚支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
	六甲支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-7	078(411)3281
	西灘支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
		神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431
神戸市中央部	神戸支店	神戸市中央区小野柄通4-1-14	078(231)2731
		NTT賞合ビル1階(仮店舗)	
	神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
	宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
	兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
	平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
	板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001
神戸市北部	鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-1	078(591)1221
	ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
	藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489
神戸市西部	垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
	舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
	伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
	玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110
西宮市	西宮今津支店	西宮市今津出在家町1-6	0798(31)2489

〈にっしん〉

2019年9月 仮決算から



彫画:伊藤 太一

We will make a fresh step everyday.



フリーダイヤル イコー ニッシンバンク
0120-15-2489
 (受付時間)平日午前9時から午後5時まで
<https://www.nisshin-shinkin.co.jp/>



ごあいさつ

平素は日新信用金庫に対し格別のご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。
日本は、台風19号などの自然災害により甚大な被害にみまわれました。
被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興、復旧を心よりお祈り申し上げます。

日本国内の景気は、輸出を中心に弱さが長引いているものの、大企業を中心に企業収益は高い水準で底堅く推移しており、それに伴い企業の設備投資も緩やかな増加傾向にあります。

また、雇用・所得環境の改善が続かなかで個人消費についても持ち直しの動きとなるなど、わが国経済は全体として緩やかな回復基調が続いています。

しかしながら、米中の貿易摩擦をはじめとする通商問題を巡る緊張、中国経済の減速、英国のEU離脱問題など先行きには不透明感が増しています。

また、地域経済の担い手である中小企業や小規模事業者においては、慢性的な人手不足に伴う人件費の高騰や原材料費の上昇による収益面の問題や、後継者問題の更なる深刻化など、多くの経営課題に直面しています。

そうした中、当金庫の令和元年9月末の預金残高は7,473億円、貸出金残高は3,434億円となり、当期純利益は、お蔭さまをもちまして1,652百万円を計上することができました。

また、経営の健全性を示す自己資本比率は10.57%と十分な水準にあります。

仮決算の概況を次ページ以降に分かりやすくグラフを用いてまとめてみましたので、ご一読いただければ幸甚でございます。

〈にっしん〉はこれからも、「お客さま第一主義」を旨とし、地域経済がどのような環境下であろうとも、地域住民や中小企業のライフステージに応じて発生するさまざまな課題の解決に向けてきめ細やかな支援と質の高い金融サービスの提供に努め、的確で円滑な資金供給を通じて地域社会の持続的発展に貢献できるよう一生懸命に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年 11月

絆（地域とともに持続的発展を）

- 〈にっしん〉は、ヴィッセル神戸を応援しています。



2012年から毎年ヴィッセル神戸サッカークリニックを開催しています。

- 市民救命士講習会



2019年度新入職員（2019.6）

明石市消防本部様による市民救命士講習会を実施。心肺蘇生法やAEDの取扱いなど、応急処置について指導を受け、新入職員32名が市民救命士に認定されました。

- 地域行事等へ積極的に参加しています。



板宿支店（2019.7）



大久保支店（2019.8）



緑が丘支店（2019.8）



宝殿支店（2019.8）

地域貢献活動

- 【明石市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.01%相当額を「明石市こども基金」へ寄付し、明石市の子育て支援事業の運営に活用していただきます。

（明石市内の10店舗）

取扱期間：

2019年4月15日～2019年6月14日



- 【神戸市子育ておうえん定期預金】

募集残高の0.01%相当額を神戸市の子育て支援事業の運営に活用していただきます。

（神戸市内の17店舗）

取扱期間：

2019年4月15日～2019年6月14日



- 【明石城築城400周年記念定期預金】

募集残高の0.01%相当額を兵庫県（明石城築城400周年記念実行委員会）へ寄付し、記念事業の運営に活用していただきます。

取扱期間：

2019年8月13日～2019年10月31日



- 【子育て応援定期積金】

対象：18歳以下のお子さまがおられ、親権者としてお子さまの定期積金をご契約される個人のお客さま

取扱期間：

2019年4月1日～2020年3月31日



『にっしん輝きメッセ2019』を開催しました！

- 国際フロンティア産業メッセ2019の会場内で、「にっしん輝きメッセ2019」を開催し、〈にっしん〉を含む25社（30ブース）が出展しました。大勢の方にお越しいただき、盛会となりました。



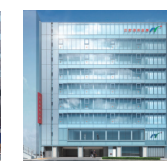
（9月5日、6日の2日間にわたり、神戸国際展示場（ポートアイランド）で開催）

店舗

- 神戸支店



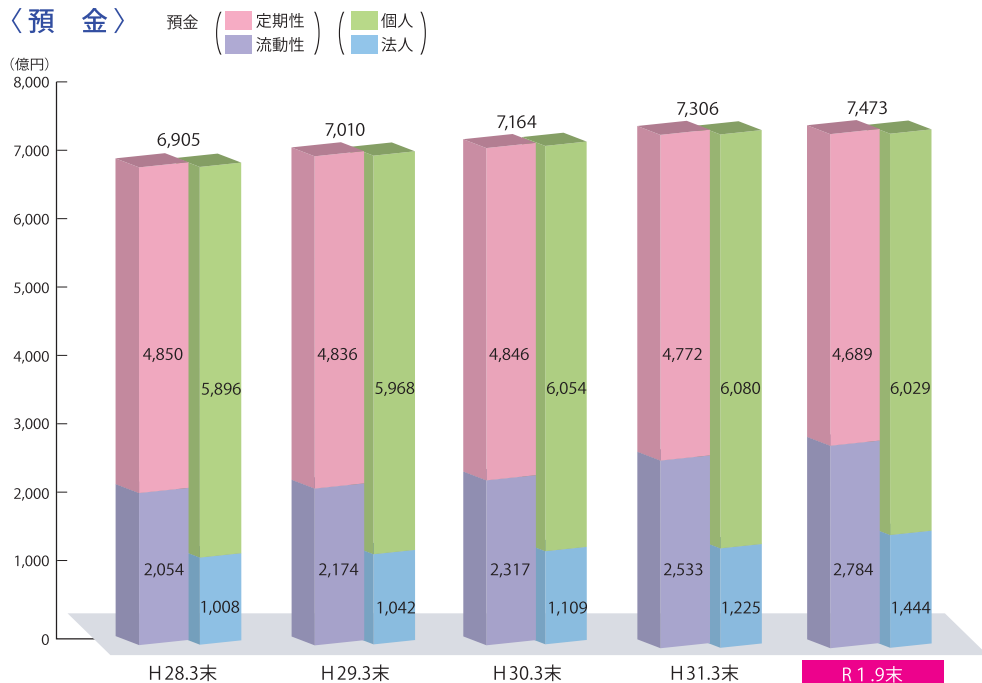
（仮店舗外観）



（完成イメージパース）

現地建替えのため平成30年7月23日よりNTT葺合ビル1階で仮店舗営業中です。新店舗は令和2年秋オープン予定です。

〈預金〉



【預金】

預金は、平成31年3月末対比167億円増加し7,473億円となりました。毎年3月末は、地方公共団体等の預金が一たび引き出されることから、実際の増加額は17億円となります。

定期性預金は83億円減少しましたが、流動性預金は251億円増加しました。これは、新しい法人のお客さまが増え、また、既存の法人のお客さまとの取引深耕を図れたことにより、法人預金が219億円増えたことが主な要因です。

今後も多くのお客さまの要望にお応えし、皆さまに喜ばれる信用金庫を目指してまいります。

【貸出金】

貸出金は、平成31年3月末対比70億円増加し3,434億円となりました。これは、保証協会保証付貸出と住宅ローンが増加したことが主な要因です。また、預貸率は低下しましたが、これは預金の増加額が貸出金の増加額を上回ったためです。

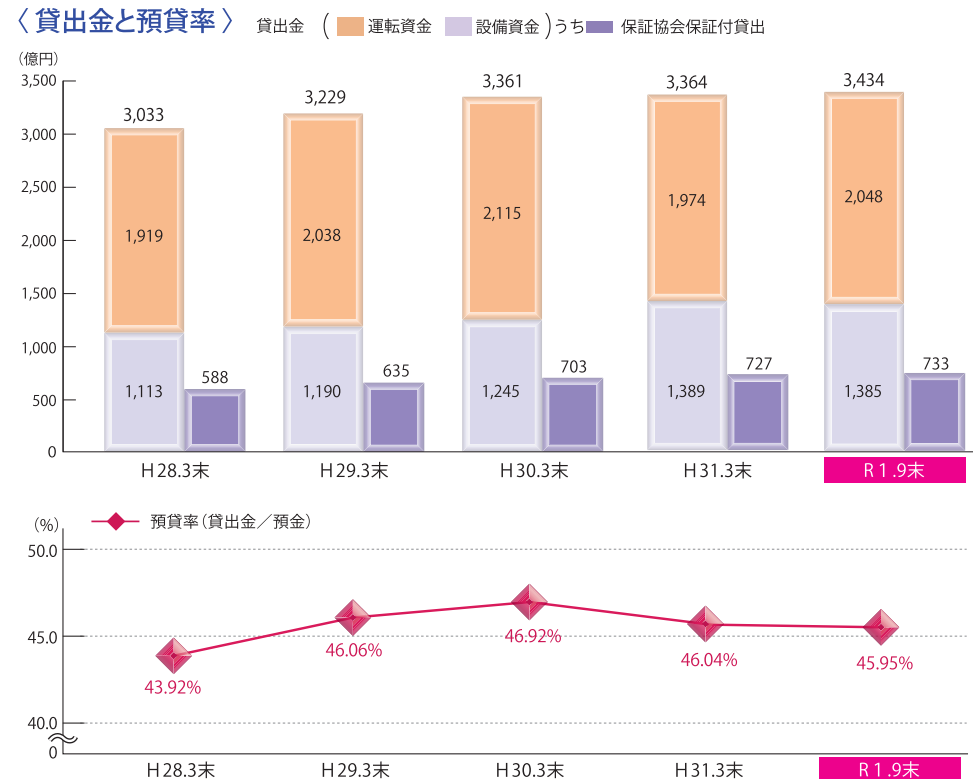
今後も地域の皆さまがかかえておられる課題の解決に全力で取り組み、適切で円滑な資金提供に努めてまいります。

【業種別構成比】

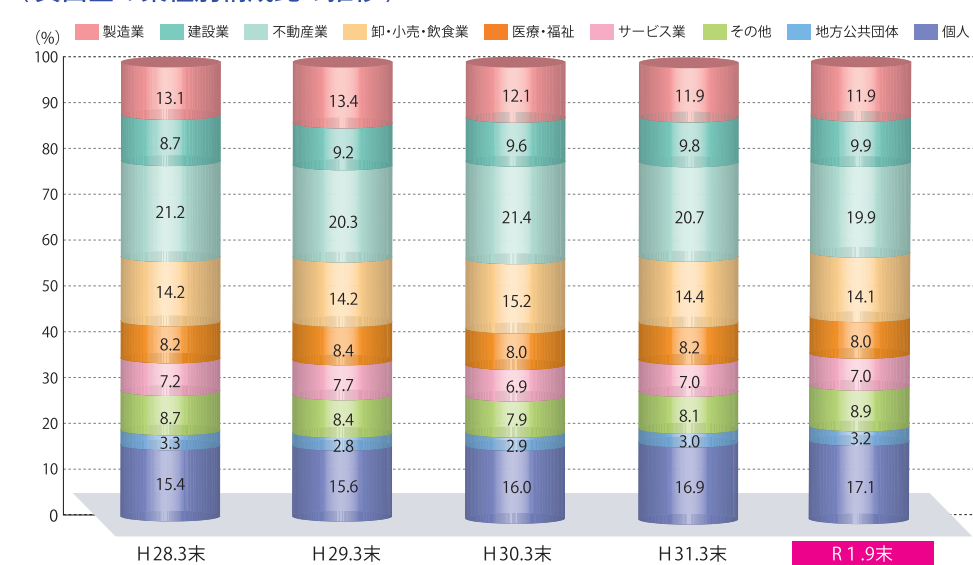
貸出金の業種別構成比の推移をみると、平成31年3月末と比較し、不動産業で0.8%、卸・小売・飲食業で0.3%、医療・福祉で0.2%の減少となった反面、建設業で0.1%、その他で0.8%の増加が見られました。

また、個人向けの貸出金は、住宅ローンの獲得を中心とした営業活動の強化により0.2%増加しており引き続き増加傾向にあります。

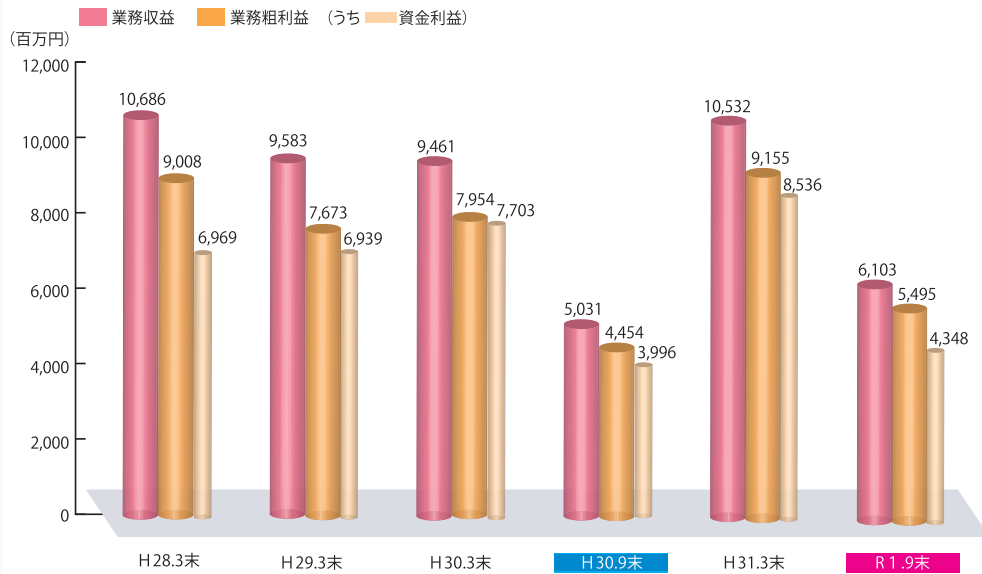
〈貸出金と預貸率〉



〈貸出金の業種別構成比の推移〉



〈業務収益、業務粗利益(うち資金利益)〉

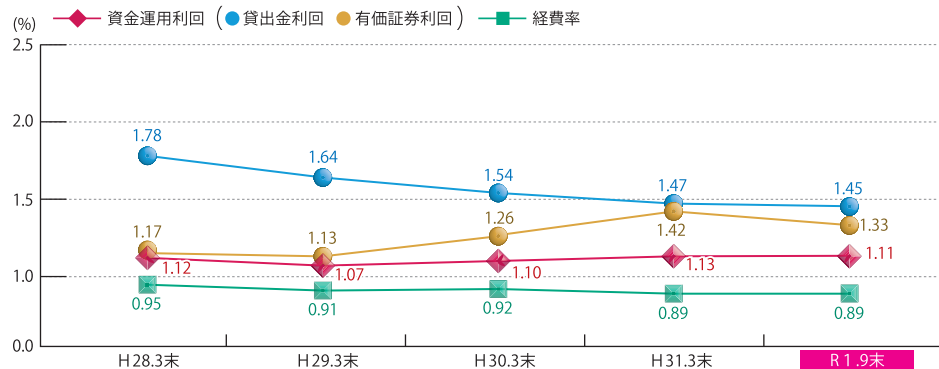


一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、有価証券等運用収入、役務取引収入等)は、貸出金利息や預け金利息が減少したものの、有価証券利息配当金や債券売却益が増加したことにより、前年同月に比べて1,071百万円の増収になりました。

業務粗利益(業務収益-預金利息等の原価)は、業務収益の増収により、前年同月に比べて1,041百万円の増益となりました。

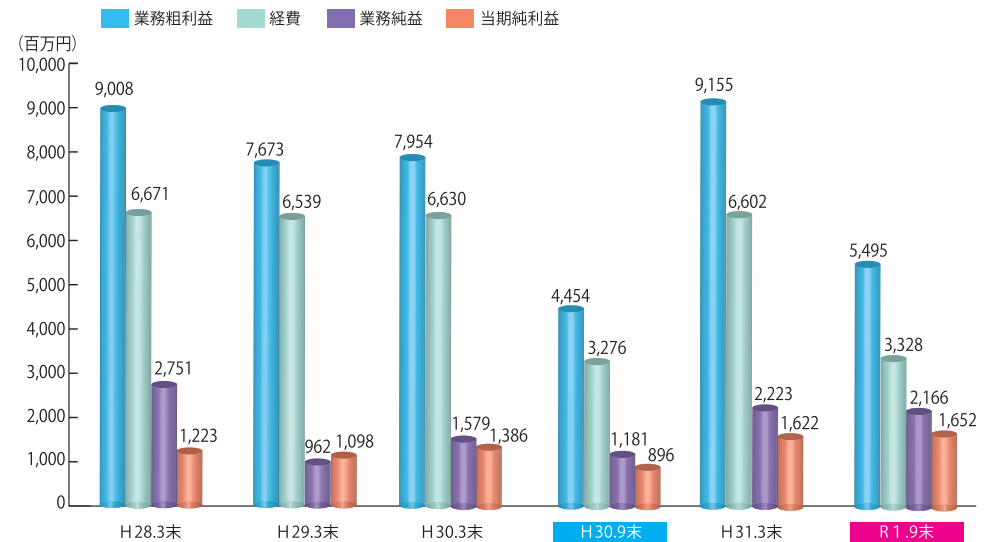
資金利益(貸出金と有価証券運用から発生する利益-預金支払利息)は、貸出金利息や預け金利息が減少したものの、有価証券利息配当金の増加と預金利息の減少により、前年同月に比べて351百万円の増益となりました。

〈資金運用利回(貸出金利回+有価証券利回)、預金利回、経費率、利ざや〉



〈業務粗利益、経費、業務純益(業務粗利益-経費等)、当期純利益〉

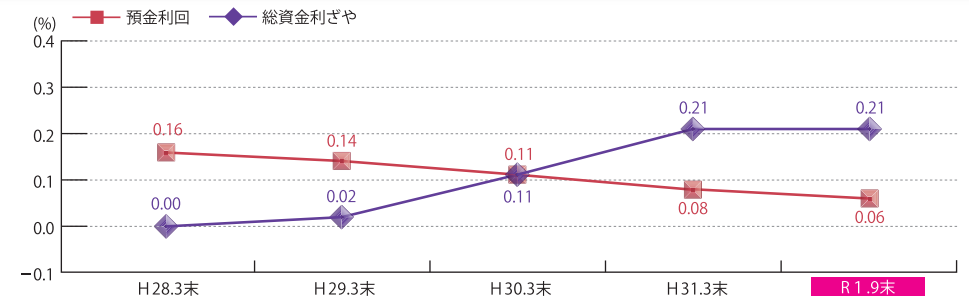
(参考)業務粗利益-(経費+一般貸倒引当金繰入額)=業務純益



経費は前年同月に比べて人件費及び物件費が増加したことから、52百万円増加の3,328百万円となりました。

業務純益は、経費の増加があったものの、業務収益が前年同月に比べて1,071百万円の増収となったことから、984百万円増加の2,166百万円となりました。

当期純利益は、業務収益の増益によって、前年同月に比べて756百万円増益の1,652百万円となりました。

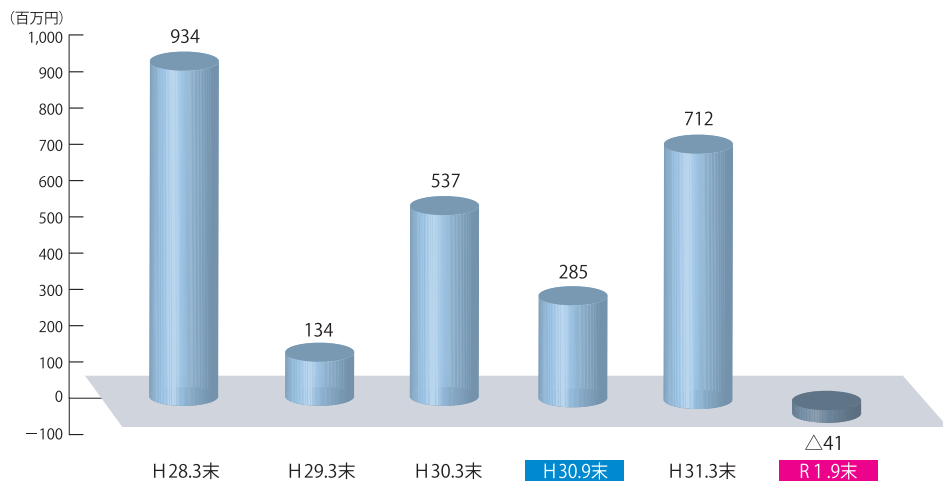


資金運用利回は、市場金利の低下に伴い貸出金利回および有価証券利回が低下したことで1.11%になりました。

総資金利ざやは、資金運用利回が低下したものの預金利回が低下したことから前期同様の0.21%になりました。

これからも収益力の更なる向上に努めてまいります。

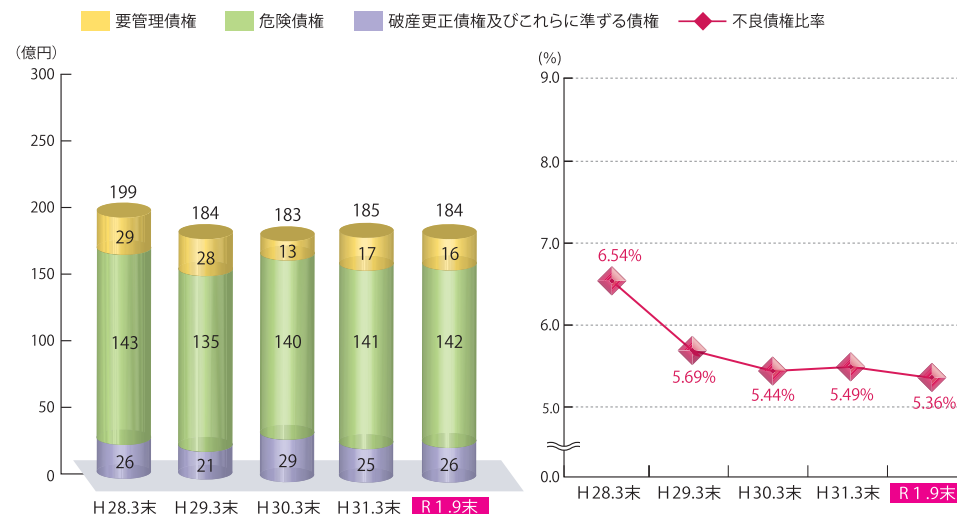
〈貸出金にかかる不良債権処理費用等*〉 *貸出金にかかる不良債権処理費用等は、一般貸倒引当金純繰入額、個別貸倒引当金繰入額、債権償却額等の合計額です。



令和1年9月末の不良債権処理費用等は、今期に目立った不良債権の発生がなかったことに加え、お客さまの経営内容が良化したことにより前年同期と比較して大きく減少し、以前に積み上げていた貸倒引当金費用41百万円が戻入れとなりました。

今後も貸出債権の不良化防止に向けて、経営改善支援や融資審査能力向上などに全力で取組んでまいります。

〈不良債権(金融再生法上の開示債権)の内訳と不良債権比率〉



不良債権は、要管理債権、危険債権及び破産更生等債権に分類されます。令和1年9月末の不良債権残高は184億円となり、平成31年3月末に比べて1億円減少し、不良債権比率は5.36%と低下しました。

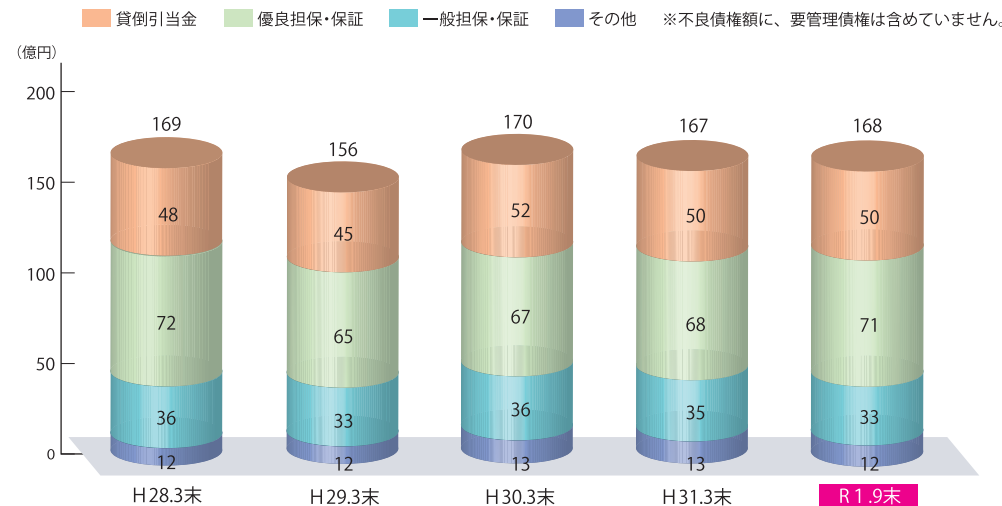
これは、目立った不良債権の発生がなかったこと、お客さまの経営の改善がなされたこと、それに貸出金が増加したことによるものです。

これからもお客さまと一体となって経営改善支援に取組むとともに、お客さまのお役に立てるよう貸出金の増加に全力で取組んでまいります。

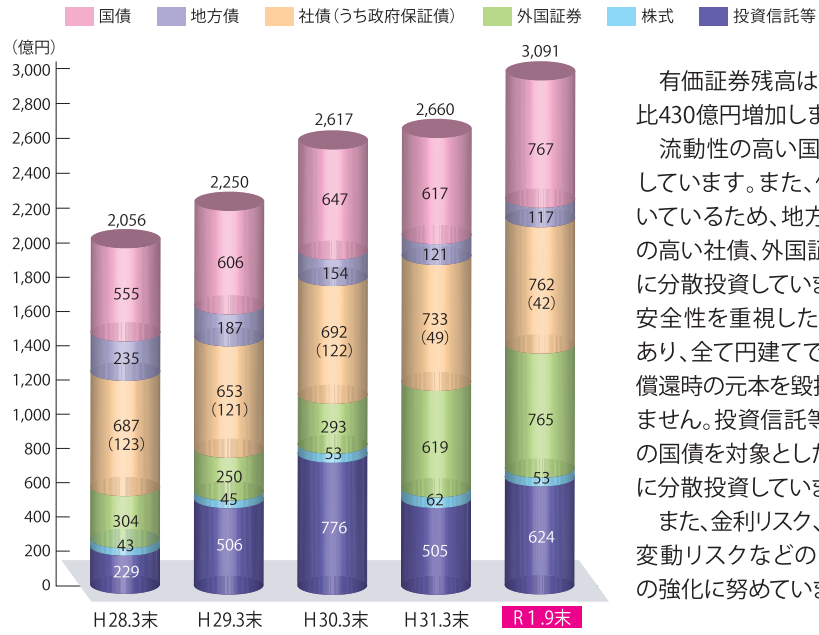
〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉

令和1年9月末の不良債権(要管理債権を除く)は、168億円あります。その保全状況は右の通りです。

貸倒引当金は50億円積んでおり、会計上は損失処理済です。優良担保・保証(保証協会保証等)の71億円と、一般担保(土地・建物等)・保証の33億円を合わせた105億円は、回収が確実であると見込んでいる額です。残りの12億円は、これまでの回収実績等から見て回収可能と見込まれる額です。



< 有価証券の種類別保有状況 (令和1年9月30日現在) >

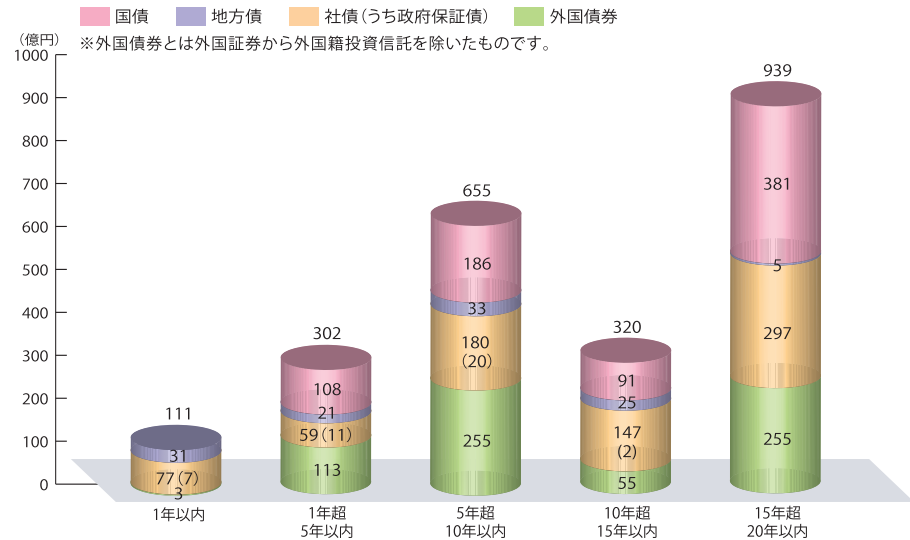


有価証券残高は、平成31年3月末比430億円増加しました。

流動性の高い国債を中心に投資しています。また、低金利環境が続いているため、地方債よりも利回りの高い社債、外国証券、投資信託等に分散投資しています。外国証券は安全性を重視した単純な仕組みであり、全て円建てで為替変動による償還時の元本を毀損するものではありません。投資信託等は、主要先進国の国債を対象としたファンドを中心に分散投資しています。

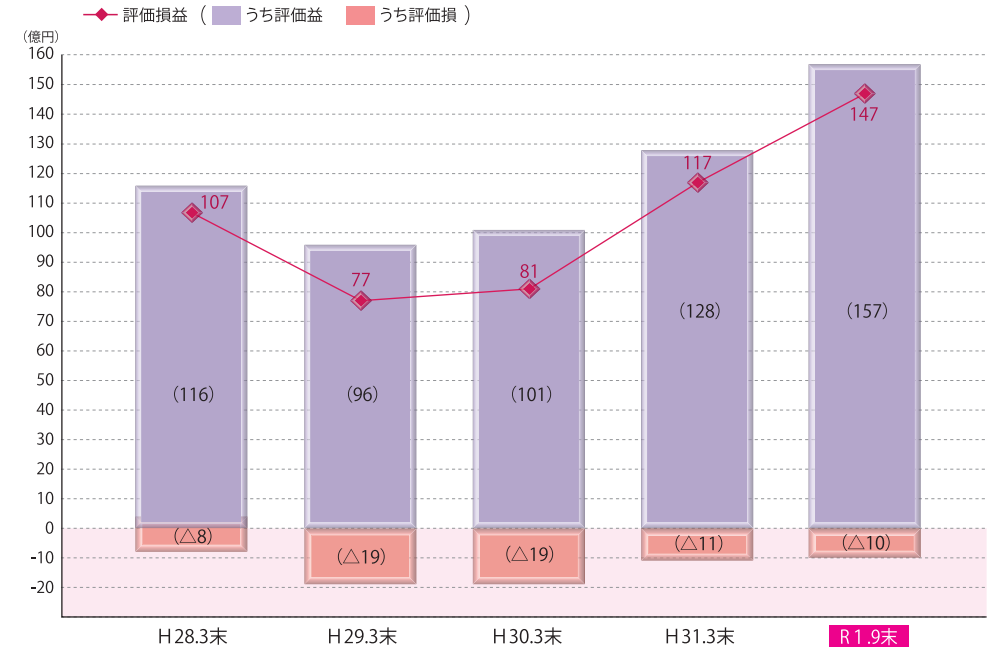
また、金利リスク、為替リスク、価格変動リスクなどのリスク管理態勢の強化に努めています。

< 債券 [償還までの期間別に見た残高] (令和1年9月30日現在) >



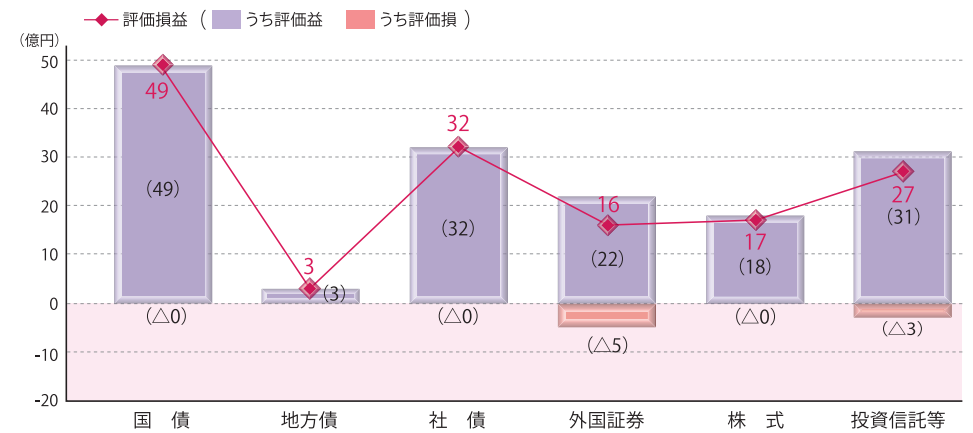
有価証券のうち株式及び投資信託等を除いた債券について、その償還までの期間別に保有残高を示したグラフです。期間10年以内の国債の利回りはマイナス金利であるため、期間10年超20年以内の国債、地方債、社債、外国債券にも投資しています。なお、期間20年超の債券への投資は行なっていません。

< 有価証券の評価損益の推移 >



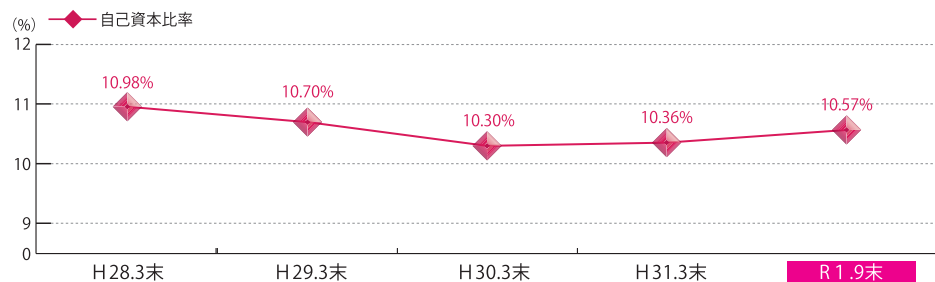
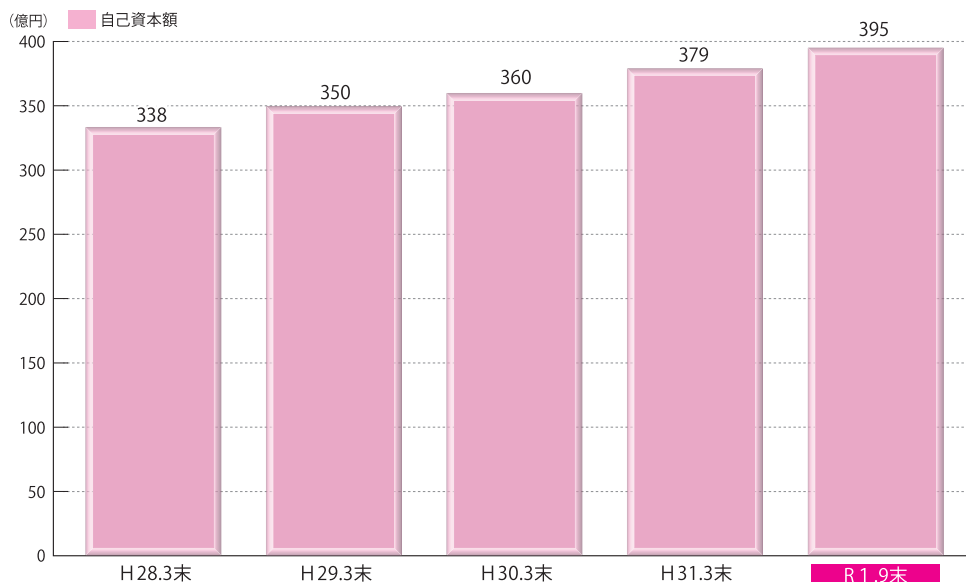
令和1年9月末現在、有価証券の評価益は157億円、評価損は10億円です。有価証券全体で差引147億円の評価益となっています。

< 有価証券の種類別の評価損益 (令和1年9月30日現在) >



令和1年9月末現在の有価証券の種類別評価損益を示したグラフです。全ての種類で評価損益はプラスとなっています。

〈自己資本と自己資本比率(信用金庫単体)〉



	(億円)				
	H28.3末	H29.3末	H30.3末	H31.3末	R1.9末
リスクアセット	3,082	3,271	3,500	3,660	3,738

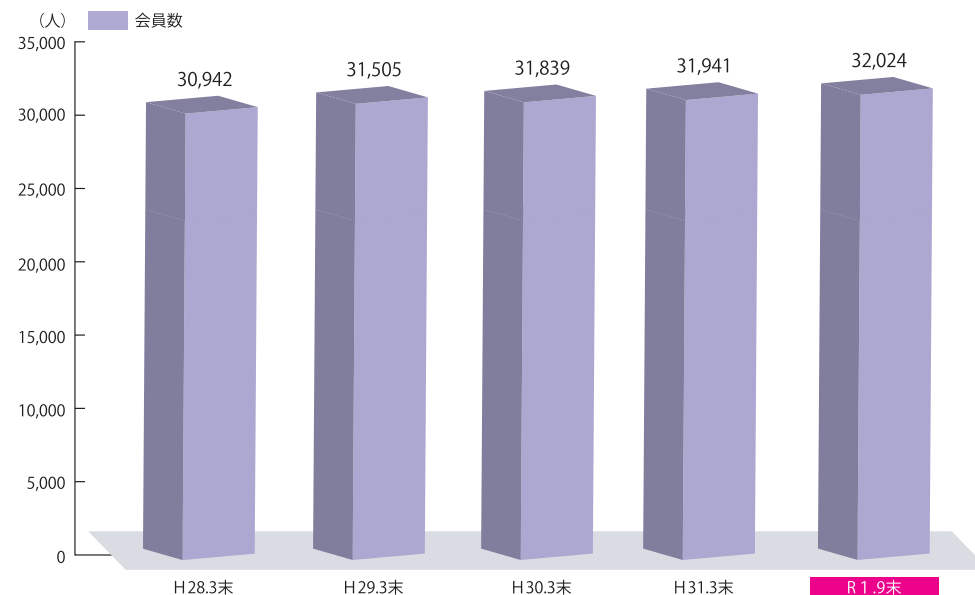
自己資本比率は、令和1年9月末で10.57%となりました。

〈にっしん〉の自己資本比率は、貸出金や有価証券の増加などによりリスクアセットが増加したものの、自己資本の額も増加したことから、前年度に比べて0.21ポイント向上しました。国内基準である4%を大きく上回り、経営の健全性、安全性を十分に堅持していると考えています。

これからも、事業活動を通じて得る収益によって自己資本の充実を図ってまいります。

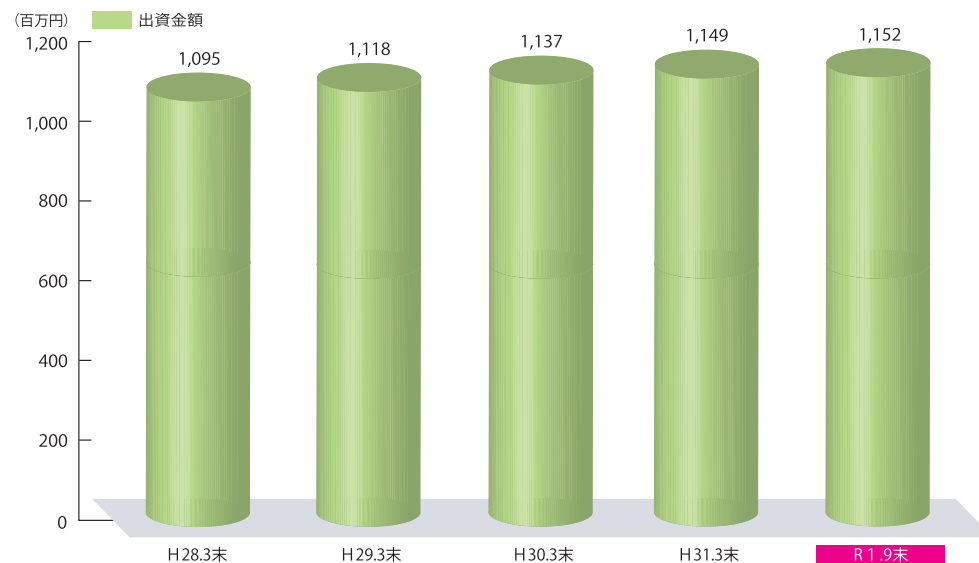
お詫び：平成31年3月期の自己資本比率及びリスクアセットに計算相違がありましたので、一部訂正させていただきます。

〈会員数〉



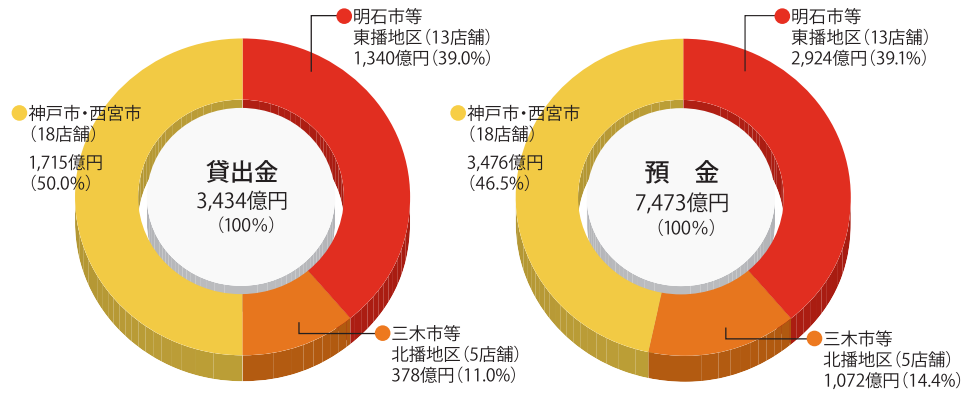
新規融資先の増加により会員数が増加しています。

〈出資金額〉

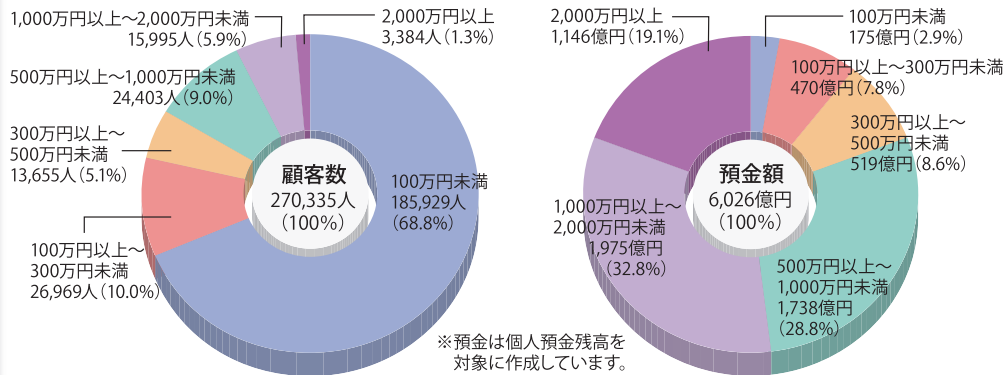


会員数の増加に伴い、出資金額も増加しています。

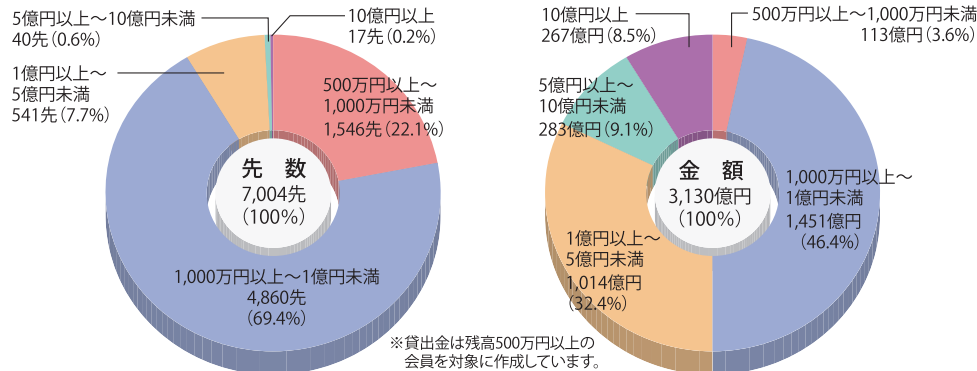
〈貸出金・預金の地域別構成〉 (令和1年9月30日現在)



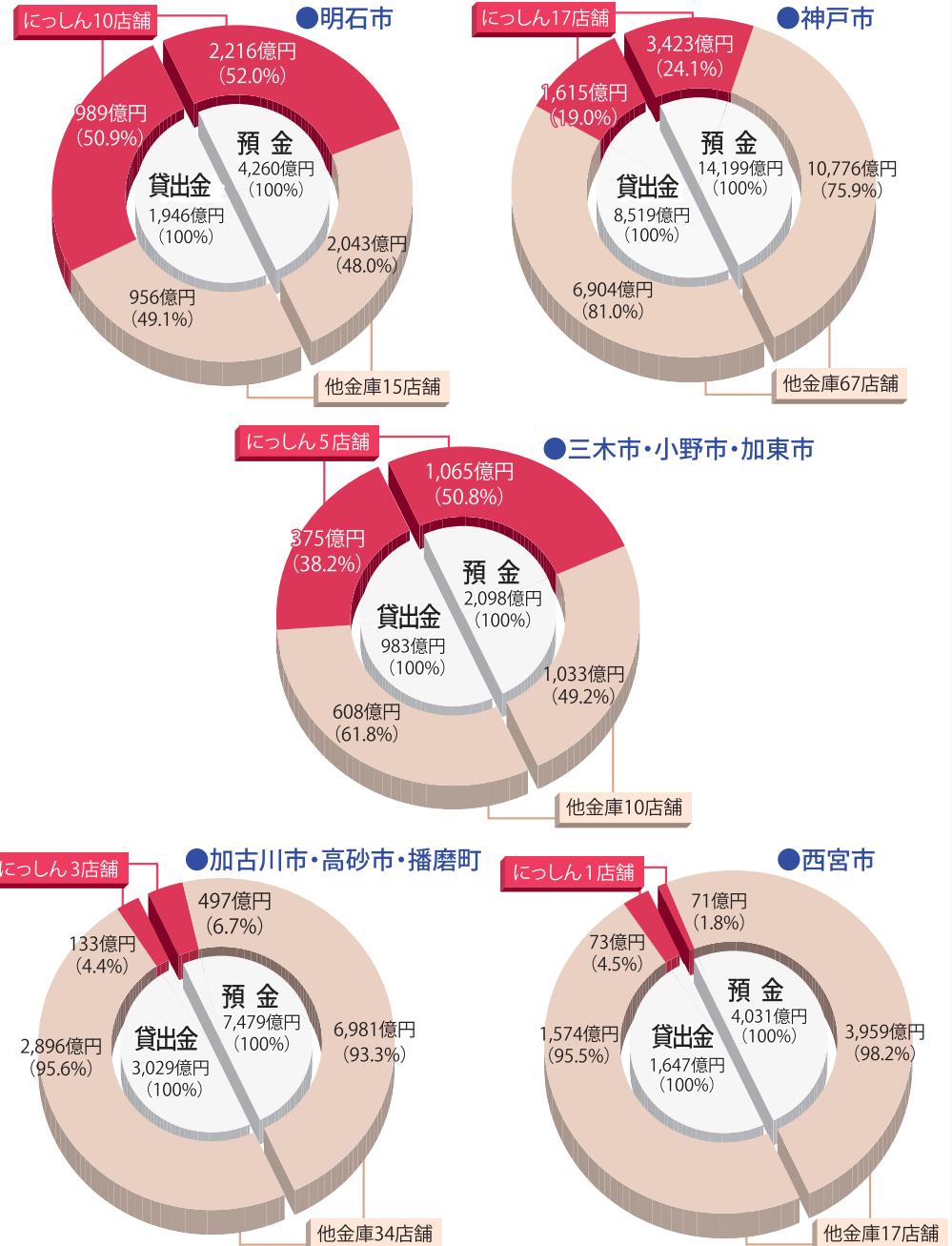
〈預金者のプロフィール〉〈個人預金の残高階層別にみた顧客数と預金額〉 (令和1年9月30日現在)



〈貸出先のプロフィール〉〈貸出金の残高階層別にみた先数と金額〉 (令和1年9月30日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉 (平成31年3月31日現在)



1. 資産・負債等の状況

(単位:百万円)

資産の部	平成30年9月末	令和1年9月末	前年同期比
現金・預け金	223,134	196,138	△ 26,996
コールローン	—	—	—
有価証券	269,725	309,149	39,423
貸出金	340,937	343,407	2,470
事業性貸出金	275,893	273,474	△ 2,419
貸倒引当金	△ 6,162	△ 5,938	224
うち個別貸倒引当金	△ 5,535	△ 5,095	440
資産の部合計	838,707	854,289	15,581

(単位:百万円)

負債及び純資産の部	平成30年9月末	令和1年9月末	前年同期比
預金・積金	746,158	747,379	1,221
個人預金	609,969	602,966	△ 7,003
借入金	45,000	50,200	5,200
負債の部合計	796,865	805,114	8,249
出資金	1,142	1,152	10
利益剰余金	35,548	37,882	2,333
その他有価証券評価差額金	5,150	10,139	4,988
純資産の部合計	41,842	49,174	7,332
負債及び純資産の部	838,707	854,289	15,581

2. 損益の状況

(単位:百万円)

項 目	平成30年9月末 (平成30年4月1日～9月30日)	令和1年9月末 (平成31年4月1日～9月30日)	前 年 同期比
業務粗利益……………②	4,454	5,495	1,041
うち資金利益	3,996	4,348	351
うち役員取引等利益	126	122	△ 4
うちその他業務利益	330	1,025	695
一般貸倒引当金繰入額③	△ 4	—	4
経費……………④	3,276	3,328	52
業務純益……………①	1,181	2,166	984
実質業務純益……………⑤	1,177	2,166	988
臨時損益……………⑦	94	125	31
うち個別貸倒引当金繰入額	289	—	△ 289
うち株式関係損益	402	151	△ 251
経常利益……………⑥	1,276	2,292	1,016
特別損益	0	△ 0	△ 1
税引前当期純利益……………⑨	1,277	2,291	1,014
当期純利益……………⑧	896	1,652	756

■主な項目の計算方法

①業務純益 = ②業務粗利益 - ③一般貸倒引当金繰入額 - ④経費

⑤実質業務純益 = ①業務純益 + ③一般貸倒引当金繰入額

⑥経常利益 = ①業務純益 + ⑦臨時損益

⑧当期純利益 = ⑨税引前当期純利益 - 法人税等合計

3. 業種別貸出金の状況

(単位:百万円、%)

内 訳	平成30年9月末		令和1年9月末		前 年 同期比
	残高	構成比	残高	構成比	
製造業	41,605	12.2%	40,705	11.9%	△ 900
農業・林業	44	0.0%	75	0.0%	31
漁業	—	—	—	—	—
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—	—
建設業	33,457	9.8%	33,848	9.9%	391
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—
情報通信業	1,170	0.3%	1,275	0.4%	105
運輸業・郵便業	13,766	4.0%	14,273	4.2%	507
卸売業・小売業	42,082	12.3%	41,256	12.0%	△ 826
金融業・保険業	12,008	3.5%	14,918	4.3%	2,910
不動産業	72,282	21.2%	68,414	19.9%	△ 3,868
物品賃貸業	3,630	1.1%	3,579	1.0%	△ 51
学術研究・専門・技術サービス業	1,849	0.5%	1,778	0.5%	△ 71
宿泊業	2,334	0.7%	2,236	0.7%	△ 98
飲食業	7,358	2.2%	7,117	2.1%	△ 241
生活関連サービス業・娯楽業	3,486	1.0%	3,036	0.9%	△ 450
教育・学習支援業	254	0.1%	412	0.1%	158
医療・福祉	28,500	8.5%	27,533	8.0%	△ 967
その他のサービス	12,060	3.5%	13,014	3.8%	954
小 計	275,893	80.9%	273,474	79.7%	△ 2,419
地方公共団体	10,040	3.0%	10,901	3.2%	861
個人(住宅・消費・納税資金等)	55,003	16.1%	59,031	17.1%	4,028
合 計	340,937	100.0%	343,407	100.0%	2,470

4. 有価証券の状況

有価証券の時価情報

(単位:百万円)

内 訳	平成30年9月末				令和1年9月末			
	時価	評価損益	うち益	うち損	時価	評価損益	うち益	うち損
その他有価証券	249,758	7,127	9,209	2,081	290,190	14,050	15,063	1,013
国 債	48,832	2,803	2,952	149	65,926	4,561	4,592	30
地方債	14,025	287	293	5	11,701	377	377	—
社 債	72,136	1,379	1,700	321	76,254	3,271	3,271	0
うち 政府保証債	6,628	110	112	2	4,253	104	104	0
うち 公社公団債	6,365	440	440	—	6,358	700	700	—
うち 金融債	—	—	—	—	—	—	—	—
うち 事業債	59,142	829	1,147	318	65,642	2,466	2,466	0
外国証券	31,786	39	487	447	68,453	1,293	1,862	568
株 式	5,772	2,119	2,150	31	5,399	1,793	1,807	13
うち子会社・関連会社株式	149	—	—	—	149	—	—	—
投資信託	77,140	479	1,606	1,126	62,393	2,734	3,134	399
その他	64	19	19	—	62	18	18	—
満期保有目的の債券	20,607	640	653	13	19,667	708	708	—
国 債	11,238	388	388	—	11,188	343	343	—
外国証券	9,368	252	265	13	8,478	365	365	—
売買目的有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 評価損益は、9月末の帳簿価格(償却原価法適用後、減損処理後)と時価の差額を計上しています。

※ 時価は9月末の市場価格等に基づいています。なお、子会社・関連会社株式、非上場株式、組合出資金については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから当該帳簿価格を時価としています。

5. 決算の状況

(単位:百万円)

項 目	平成30年9月末	令和1年9月末
業 務 純 益	1,181	2,166
経 常 利 益	1,276	2,292
コア業務純益	862	1,156
当期純利益	896	1,652

6. 自己資本の状況

単体自己資本比率

(単位:百万円)

項 目	平成30年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	36,691
うち出資金及び資本剰余金の額	1,142
うち利益剰余金の額	35,548
うち外部流出予定額(△)	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	653
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	653
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	37,344
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	442
自己資本の額(C-D) …… (E)	36,902
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	361,273
単体自己資本比率(E)/(F)	10.21%

(単位:百万円)

項 目	令和1年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額 (A)	39,035
うち出資金及び資本剰余金の額	1,152
うち利益剰余金の額	37,882
うち外部流出予定額(△)	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額 (B)	880
うち一般貸倒引当金コア資本算入額	880
コア資本に係る基礎項目の額(A+B) … (C)	39,915
コア資本に係る調整項目の額 …… (D)	395
自己資本の額(C-D) …… (E)	39,520
リスク・アセット等の額の合計額 …… (F)	373,850
単体自己資本比率(E)/(F)	10.57%

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出を行なっています。なお、(く)は国内基準を採用しています。

自己資本の質の向上を図るため、平成26年3月のパーゼルIII適用により、これまでの補完的資本とされていた劣後債や劣後ローン等を外し、出資金、利益剰余金、一般貸倒引当金などの合計から調整項目を控除したものが「コア資本」と定義されました。

お詫び:平成30年9月期の自己資本比率及び平成30年9月期と令和1年9月期のリスク・アセットに計算相違がありましたので一部訂正させていただきます。

7. 自己資本の構成(単体)

(単位:百万円)

項 目	平成30年9月末	令和1年9月末
コア資本に係る基礎項目(1)		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	36,691	39,035
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,142	1,152
うち、利益剰余金の額	35,548	37,882
うち、外部流出予定額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	653	880
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	653	880
コア資本に係る基礎項目の額(イ)	37,344	39,915
コア資本に係る調整項目(2)		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)の額の合計額	158	88
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	158	88
前払年金費用の額	283	307
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	442	395
自己資本		
自己資本の額(イ)-(ロ)=(ハ)	36,902	39,520
リスク・アセット等(3)		
信用リスク・アセットの額の合計額	346,788	358,462
資産(オン・バランス)項目	345,947	347,832
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△3,677	△3,677
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く)	—	—
うち、前払年金費用	—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△3,677	△3,677
オフ・バランス取引等項目	665	10,198
CVAリスク相当額を8%で除して得た額	174	436
オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額	14,485	15,382
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	361,273	373,850
自己資本比率((ハ)/(ニ))	10.21%	10.57%

●オペレーショナル・リスク「基礎的手法」の算出方法

粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)×15%
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数 ±8%

8. 不良債権の状況

金融再生法開示債権残高

(単位:百万円)

区 分	平成30年9月末(A)	令和1年9月末(A)	前年同期比
	債権額	債権額	前年同期比
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	2,830	2,630	△200
危険債権	14,723	14,217	△506
要管理債権	1,146	1,620	474
不良債権合計	18,701	18,468	△233
正常債権	323,392	325,973	2,581
合計	342,093	344,441	2,348
不良債権比率	5.467%	5.362%	△0.105%

保全状況(令和1年9月末)

(単位:百万円)

区 分	担保・保証額(B)	担保・保証のない部分(C)=(A)-(B)	引当額(D)	(C)に対する引当率(D)/(C)	保金額(E)=(B)+(D)	保全率(E)/(A)
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	1,268	1,362	1,362	100.00%	2,630	100.00%
危険債権	9,240	4,976	3,733	75.02%	12,974	91.26%
要管理債権	947	672	256	38.10%	1,204	74.32%
不良債権合計	11,456	7,011	5,352	76.34%	16,808	91.01%

■本誌では、単位未満を切り捨てて表示しています。したがって、項目ごとを加減算した場合、合計欄および増減欄の数値と一致しない場合があります。
■本誌に掲載している数値については、会計監査人による監査を受けていません。